



雨水利用を進める全国市民の会

会長 辰濃 和男

〒131-0032 東京都墨田区東向島 1-8-1

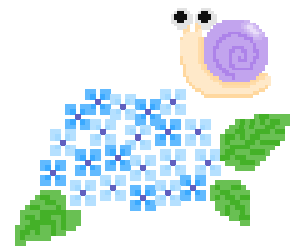
TEL: 03-3611-0573

FAX: 03-3611-0574

URL: <http://www.rain-water.org/>

7 / 5 (金) は第 8 回総会が開催されます。
(墨田区役所 131 会議室にて PM6:30 より)

日本水大賞・東京都環境賞の栄誉を受け、志は地球的に（国際雨水センターを目指して）、行動は地域からを合言葉に、雨の世紀を切り開きましょう！



「雨水利用を進める全国市民の会」の革新的雨水プロジェクトが第4回日本水大賞・グランプリを授賞し、5月30日に科学技術館サイエンスホールでその表彰式及び授賞活動発表会が行なわれました。

市民の会による雨の事典の発行や雨水資料館活動、雨水利用の国際協力という総合的な実行力とアイデアが評価されたためです。

当日は秋篠宮殿下・妃殿下にご臨席を賜りました。両殿下を前にしての授賞活動発表は、簡潔かつ明確なものであり、秋篠宮殿下もご興味をもたれたようです。秋篠宮殿下も雨水タンクを3個お持ちになっていて、審査部会長に雨水タンクの重要性を語られたそうです。

市民の会の授賞あいさつでは、辰濃会長から『水源の自立、雨との融和、地域水循環の再生』

の3つの理念、すなわち、都市が水源自立をすること、雨水に私たちが生命を与えてもらっていること、自然の水の摂理に従うことが話されました。

村瀬さんからは、雨水資料館、雨の事典、バングラデシュでの砒素中毒の実態と雨水ボトリング事業（スカイ・ウォーター・プロジェクト）の報告がされました。そして『No More Tanks for War, Tanks for Peace!（戦争のための戦車タンクはいらない、平和のための雨水タンクを！）』の宣言で締めくくると、会場は一瞬シーンとなってから、すぐに満場の拍手喝采となりました。

授賞式には辰濃会長を始め19名が参加し、その後の懇親会では、満面の笑顔で料理に舌鼓を打つ姿が見られました。

東京都環境賞・都知事賞もダブル授賞！

日本水大賞に続き、今度は2002年東京都環境賞・都知事賞を授賞しました。

東京都環境賞は、東京都の主催で、環境問題の解決に向けて、都民や事業者が取り組んでいる活動がいっそう推進されるように、その功績をたたえ、広く知られるようにすることを目的としています。

私達の活動は、雨水利用の普及啓発、雨水フ

ェア・雨水探検隊・雨水利用市民フォーラムなどの開催、地元墨田区に対する雨水資料館の企画・制作への協力、国連及び墨田区と共同で行った雨水利用ブックレット（英語版）の作成、海外での雨水利用の技術協力などの点が高く評価されました。6月5日の授賞式には、代表として徳永副会長が雨水Tシャツ姿で出席し、石原都知事にTシャツと雨の事典を寄贈して市民の会のことをPRしてきました。（笹岡）



第8回雨水利用を進める全国市民の会総会のお知らせ

先日もお知らせしましたように、7/5(金) PM6:30 より、墨田区役所 131 会議室 (Tel.03-5608-1111)にて、総会を開催いたします。主要な議事は、

- 2001年度の事業及び決算報告
- 2002年度の事業計画及び予算
- 2002年度役員選出

です。

本会が発足して8年目になります。2001年度は私たちにとって21世紀の幕開けにふさわしい、うれしい出来事がたくさんありました。(右参照)

今回の総会で話し合うポイントは次のとおりです。

- 雨の事典を活かした雨の文化事業の推進
- 雨水循環社会実現に向けた新たな取り組み (来年3月の世界水フォーラムに向けた取り組みなど)
- 国際雨水センターの実現を視野に入れた会の組織体制の強化について などなど

尚、都合上、どうしても出席できない方は、委任状を事務局当てに必ずはがきかFaxでお送りください。(事務局の連絡先は1面右上に)

近年の成果



1. 『雨の事典』の完成(2001.12)
構想5年、会員の総力を結集
2. 『第4回日本水大賞・グランプリ』(2002.5)
3年前から進めてきた雨水利用の国際協力・支援事業に対する高い評価
3. 『東京都環境省・都知事賞』(2002.6)
地元墨田区と協働で取り組んできた地道な活動が評価される
4. 『スカイ・ウォーター・プロジェクト』の始動
バングラデシュで進めてきた砒素汚染地下水の代替水源確保のために、地元のNPOと協働して行っている活動(雨水ボトリング事業)

また、2002年度会費の納入をお願いいたします。(先日のお知らせの中に委任状と払込取扱表が同封されています)

会員の英知を結集し、21世紀の雨水の時代を切り開く総会にぜひご出席下さい!



日本水大賞審査講評 顕彰制度委員会 審査部会長 中川 志郎氏

応募総数は236件、45都道府県に及び、今回(第4回)は特に学校、企業、個人からの応募が増え、中でも総合学習の影響か、小学校関係が22件と大幅に伸びました。

日本水大賞グランプリの荣誉に輝いた「雨水利用を進める全国市民の会」の革新的雨水プロジェクト

は、雨の事典の発行、雨水資料館活動、バングラデシュを始めとする国際協力が、単なる雨水利用の枠を超えた、総合的な実行力とアイデアであったことが評価されたもので、人類の絆を結びえる活動であるとして、審査員一同の支持を得るものでありました。



ガンバレ三宅島 ” すみだ環境ふれあい縁日 ”



雨の音と愛の音

高橋 祐司さん

6月8日(土)、すみだ環境ふれあい館にて、開館1周年を記念し、また三宅島復興の支援をかね、「すみだ環境ふれあい縁日」が行なわれました。くさやや、あしたばなどの三宅島の特産物や多くのフリーマーケットが並び、大変盛況でした。

私は、子供たちに雨水の大切さを伝える、レインスティックづくりや雨水金魚すくいのお手伝いをさせていただきました。レインスティックとは、中南米の先住民が雨乞いの儀式に使ったものです。

楽器の原型とも言われ、傾け方でいろいろな雨の音を楽しめます。レインスティック作りには幼稚園児から中学生、そして大人までと多くの人に楽しんでいただき、基本的に参加者自身に作ってもらいました。幼稚園児にとってはのこぎりや、かなづちを持ったのも初めてのようで、はらはらしたときもありました。

私にとって印象的であったのは、赤ちゃんを背負

った耳の不自由な女性が熱心に作っていらっしまったことです。

子供のために、自分にはわからない音を、自分で作り、子供に伝える。感動的でした。その音はとても透き通っていて、子供に対する母親の愛の音でありました。これが本当の雨の音かなと思いました。

この「縁日」は単に雨水の大切さを伝えることではなく、人から人へ気持ちを伝える、そのような意味を持つのだと思いました。

レインスティックって？

アフリカや南米の民族楽器で、元は中が空洞になったサポテン。とげを抜いて逆に差し込み、中に小石か種のようなものを入れて傾けると雨音のような優しい音がします。



我ら、くさや炭火焼き隊

加藤 博之さん

埼玉県三郷市役所の、渡辺、加藤、木原です。

最近のご無沙汰していましたが、久しぶりの仕事となりました。そうです、当日会場はおるか近所一帯をナゾの悪臭(?!)で包み込んだ、「くさや炭火焼き隊」です。

加藤の親戚が新島にいるので、半なまの最高の新島産くさやを手配してもらいました。三宅島支援もかねたイベントだと伝えると、快く協力してくれました。新島の方々には感謝いたします。

イベント当日は最高の天気でした。我々は七輪の炭火で、50匹ものくさやを焼いたのです(!!) みなさんはくさやを食べたでしょうか。反響は様々で、鼻をつまんで足早に通り過ぎる人。こりゃビールが欲しいな! と喜んでくれる人。初めて食べるの! と、ドキドキしながら食べてくれる人。などなど、たくさんの方にインパクトを与えたようです。

「家じゃ焼けないのよ、好きなんだけど・・・」という方も多かったですね。確かに、かなりのニオイが漂うので近所に気を使う食べ物です。それを堂々と炭火で焼いていたのがウケたようです。

それに、三宅島はじめ、利島、大島など伊豆七島出身の方が多く来てくれていました。市民の会にも、利島出身の方がいて「くさやを焼けるなんて、うれしいわ! 」と、飛び入りでお手伝いいただきました。帰りがけに「おみやげも買ったわ! ありがとうね」と声をかけられたり、子供たちは恐る恐る口に入れて、「・・・おいしい! 」と喜んでくれたり、嬉しい反響がたくさんありました。

村瀬さんの話では、「くさやの菌と、味の素の菌は同じ仲間なんだ。だから噛めば噛むほど味が出るだろう」と、教えてもらいました。なるほど! 味の素とくさやは親戚だったのか・・・!



近況写真



日本水大賞展示パネル (H14.5.30)



日本水大賞授賞式懇親会にて (H14.5.30)



すみだ環境ふれあい館展示写真の拡張 (全景)



すみだ環境ふれあい館展示写真の拡張 (近景)

(バングラデシュやタスマニアなどでの雨水利用の現状報告)



会員紹介

会報委員 高橋祐司さん



私は現在、明治学院大学の経済学部
に所属しております。墨田区に生まれ
育ち、村瀬さんが以前、勤めていた本
所保健所のそばに住んでおります。ま
た、区内の外手小学校を卒業しまし
たが、区内で初めて雨水利用が行な
われた、隣の外手児童館でよく遊ん
でいました。なにかこれも「雨水利
用を進める全国市民の会」との縁なの
かなと感じました。私としては「雨
水利用」を若者の視点から眺められ
たらと思います。ご迷惑をおかけす
ることもあるかと思いますが、ぜひよ
ろしくをお願いします。

編集後記



今回は新たに会報部会の幹事にな
られました、高橋朝子さんが仕事の
トラブル(?)で編集に参加でき
ず、村瀬さん、笹岡さん、高橋祐
司さん(新人)、宮村の4人で急遽
とりまとめました。初めての紙面
校正に四苦八苦。前任の系賀さん、
朝子さんの苦勞を噛み締めました。

次回からは、また内容の濃い『あ
まみず』の再スタートです。取材
や原稿のお願い等、お手数をおか
けすることもあります。よろしくご
協力ください。
(宮村)